北浦小だより
令和2年11月25日
（HP） http://www2.sopia.or.jp/kitaurael/

Hop Step Jump 第 30 号
ホップ ・ ステップ ・ ジャンプ

文責:校長 武田 民弥

～児童一人一人の「分かる授業」のために～

「校内授業研究」を進めています！

１１月は茨城県の教育月間です。本校では学び直し（復習）として，昼の北浦タイムを利用して「学力向上強化月間」を実施中です。先生方も授業力向上のために校内授業研究を積極的に実施しています。

授業研究は，児童一人一人が「できた・わかった」と実感できる授業づくりに向けての先生方の勉強会です。授業を複数の教員が見学し，授業の進め方，発問の仕方，児童への助言や手助けなどが適切だったか，もっと分かりやすい指導の仕方があるのではないか等について協議し，**児童にとって，よりわかりやすい授業が実践できるように取り組んでいます。**

２０年後，社会の中心として活躍する児童にとっては，物事を覚えるだけの知識理解の力だけでは十分ではありません。**主体的に物事にあたり，自分の考えをもとに，他の人の考えや資料等からよりよい考えを判断し，決定していく力が必要になってきます。**そのために，小学校の時から「自分の思いや考えを表現する力」が身に付くよう指導にあたっています。

持久走大会へ向け，頑張っています。

１２月３日の校内持久走大会に向け，業間の休み時間を利用して校庭を走っています。今年度は密にならないように，１・３・５・年生と２・４・６年生の２つのグループに分かれ，内側から外側へ低学年・中学年・高学年と分かれて走っています。持久走は得意な人ばかりではないですが，体力をつけるためには大切な活動です。自分の体力に応じた目標を決め，取り組んでもらいたいと思います。

26日 分散型授業参観を実施

明日２６日に今年度初めてとなる授業参観を分散型で行います。検温・消毒・健康チェックはもちろん，参観時には密にならないことや私語を謹んでいただくなど御配慮いただくことが多いと思いますが，よろしくお願いいたします。また，**コロナ感染状況によっては中止となる場合もあることを御了承ください。その際はメール配信いたします。**

「読書の秋」・・・本との出合い

「ライフトラベラー人生の旅人」喜多川泰 作

～「行動の原動力」について考えみましょう～

下記は，右の本の中の一説です。子供も大人も行動の原動力について，主人公の２人の会話から考えてみてください。

夏輝「〈損得〉が何かを〈やる・やらない〉の判断基準になると，欲しいものがあるから行動するって常識に，人生を台無しにされることだってあると思うよ」
知哉「ちょっと待って。欲しいものがあるから行動するって，ダメなことなの？」
夏輝「それ自体は悪くないけど，みんな，この言葉を別の意味で解釈しているのが問題だよね」
知哉「それって，どんな意味？」
夏輝「欲しいものが手に入らなければ行動しない，または，欲しいものがないから行動しないって解釈していない？」
「お母さんが子供に何か手伝ってって言うとするよね。そうすると子供が『手伝ったら何くれるの？』って聞いたり，『百円くれる？』って聞いたりする。仮にくれるものがわかって納得したり，希望の金額がもらえるってわかったりすると，行動を起こすだろけど，それは，行動の結果，手に入るものがわかってるから行動するってことだよね」
知哉「うん」
夏輝「**これを続けていくと，結果として手に入るものがわかっていないものに対して行動できない人になっていく**でしょ。何ももらえないかもしれないけど，この仕事やってと言われたら『損じゃん』って思って行動したりしなくなるよね。」
知哉「ああ」
夏輝「じゃあ，どうやってそれ以上のものを手に入れるの？」
知哉「えっ？それ以上って？」
夏輝「手に入ることが自分で予想できる以上のものさ。**手に入ることがわかっているものに対してしか行動しなくなるとしたら，自分では想像もつかないようなすごいものをどうやって手に入れるの？**」
知哉「どうやってって言われても･･･」
夏輝「ほらね。それじゃあ，自分の可能性を開花させることはできないじゃないか」
知哉「可能性を開花？」
夏輝「だって，考えてみなよ。人生を通じて，自分が手に入れられるとわかっているものに対してしか行動しないんだよ。そんな人生のどこで，自分の可能性に腰を抜かすほど，ビックリすることができる？」
夏輝「**ぼくらの可能性は，ぼくらの想像をはるかに超えたところにあるんだよ。それを，自分が手に入れられると想像できる範囲でしか行動しなければ，その可能性を開花させる人生なんて送れるわけないじゃないか！**」
（後略）

「校訓案」へ御協力 ありがとうございました。

保護者，高学年児童，職員で総数１２０作品が集まりました。次回の校訓策定委員会の際，選考資料として活用させていただきます。